

世界中からやってきた“オンリーワン・ナンバーワン”に感激!!

「国際花と緑の博覧会」開催20周年記念企画

特集:「咲くやこの花館」のオモテとウラを一挙公開 百花繚乱の世界を巡る

QRコードでもっとくわしい情報にアクセス!



ヒビスクス・インスラリス

国内最初の開花、大株で唯一の展示

オーストラリアのフィリッパ島原産の野生ハイビスカス。自生地では家畜の害にあり、絶滅寸前の状態です。オーストラリアの植物園が増殖し、花の万博開催時にオーストラリアより紹介され、日本で初めての開花となりました。



メコノプシス(青いケシ類)

世界でも珍しい周年開花

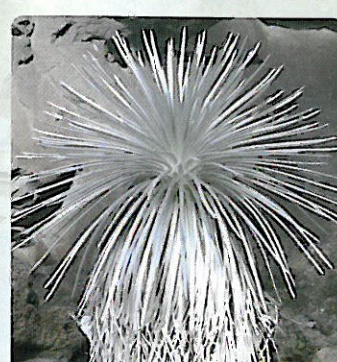
チベット・雲南など標高 3500 メートル以上の地に自生するケシ科の植物。冷涼地でのみ栽培可能で、当館では冷蔵庫など特殊な装置を用いて開花時期を調整することで、いつでも開花風景をご覧いただけます。



オオオニバス

葉のサイズが世界最大

当館のオオオニバスはブラジルのマナウス原産。夏場には葉が直径2メートルにもなり、小さな子どもなら乗ることもできます。葉の裏にはすどいトゲがあり、魚から食べられないように身を守っています。



ギンケンソウ

日本唯一のハワイの高山植物展示

ハワイのハワイ島やマウイ島の高山帯に見られます。冷涼な環境でのみ生育し、開花までは種後 10 数年かかります。日本では当館のみで展示されています。淡いピンク色で、ヒマワリを小さくしたようなかわいらしい花を咲かせます。



フニーバオバブ

日本唯一の開花株

マダガスカル原産のバオバブ。真夏の 19 時頃に、30 分間から 1 時間ほどで開花するので、花びらが開く様子を目の前で観察できます。また日本で開花する株は、当館にしかないと言われています。



熱帯雨林から砂漠地帯、北極・南極まで地球一周の気分も味わえます

日本最大級の温室を有する総合植物園「咲くやこの花館」。熱帯から乾燥地帯、高山、極地帯にわたる 8 つのゾーンに分かれ、約 2600 種・1 万 5000 株の植物が栽培されています。珍しい色やカタチの植物が自然の状態に植わっているのを眺めると現地さながらの情景が浮かびあがります。数々のオンリーワン・ナンバーワンとの出会いを楽しみながら、あなただけのお気に入りを探してみても面白いのでは?

世界最大の葉を持つ水草 “オオオニバス”をいただきます

世界初の珍料理!!

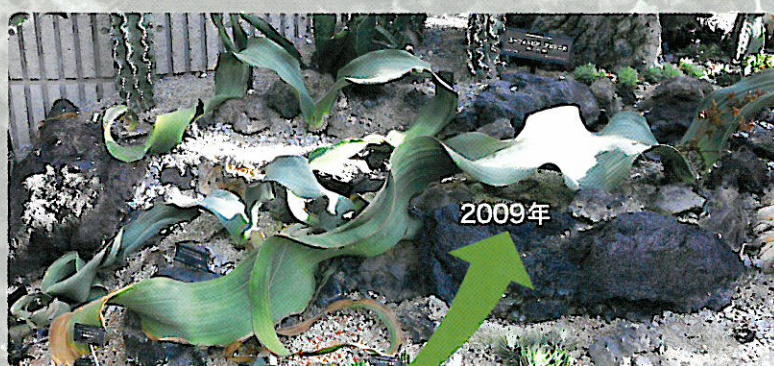
「緑と水のレストラン」にて 1 日 10 食の限定メニュー



当館内の「緑と水のレストラン」では、「オオオニバス」ときのこの和風スパゲティをお召し上がりいただけます。これは「来館記念に食べられる珍しいメニューを」と水草に詳しいスタッフが考案、熟練した調理師が試行錯誤を重ねた結果、ようやく誕生した逸品。オリーブオイルで炒めた後、白ワインを加えたことで、あっさりした旨みを引き出すことに成功しました。もちろん安全性は研究機関のお墨付き。お子様からご年配の方まで、世界でココだけの味わいをお楽しみ下さい。

オオオニバスときのこの和風スパゲティ (880 円税込み)

※注意事項 食物タンパク質を含むので、アレルギーのある方はご注意ください。食材の調達状況により、休止させていただくことがあります。



2009年



1990年

キソウテンガイ(奇想天外)

公開植物の中で最大級の大きさ

アフリカ南部のナミブ砂漠を中心に分布。現地ではカメムシが運ぶ病原菌により絶滅の恐れがあります。当館には雄株、雌株ともにあり、雄株は 40 年生ですが、現地では 5 千年以上も生きている株が確認されています。



カエンボク

ユニークな花びら第一位!?

アフリカ原産です。チューリップを集合させたような、トロピカルな花が咲きます。ちなみにカエンボクの英名は、アフリカンチューリップツリーです。



ニンファエア・ビオラケア

開花株展示は咲くやこの花館だけ

珍しいオーストラリア原産の熱帯性スイレン。近年紹介されるようになり、花の美しさが人気を集めています。設備の整った施設が少ないため日本国内での栽培は稀です。



久山 敦 くらやま あつし
咲くやこの花館 館長

1972~73年英国王立キュー植物園留学。1970~82年(財)国際日本研究所に勤務。1982~93年兵庫県淡路ファームパークを設計から手掛け主任専門員に。1988年より咲くやこの花館の高山植物室、ロックガーデンの設計、栽培指導。1993年より「咲くやこの花館」勤務。野生植物を探索のために51ヶ国を訪問する植物のスペシャリスト。
*RHS(英国王立園芸協会日本支部)理事、メリーボーンズの会理事、(社)フラワーズサイエンス評議員
*著書 『ヨーロッパの花の旅』(創文社)
共著 『朝日園芸百科』(朝日新聞)、『アンカー英語辞典』(学研)、『山野草ハンドブック』(NHK出版)、『趣味の園芸』(NHK出版)、『趣味の山野草』(新の葉書房)